

単元	年組番	4問
六年 筆写の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「笑うから楽しい」	氏名	

一 次は、田中さんの町で夏休みに行われる「農産物祭り」について書かれた文章の一部です。ア・イの中に入る言葉の組み合わせとして正しいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を○で囲みましょう。

今年も夏休みに、各地の野菜や果物などを販売したり、それらを使った料理を紹介したりする「農産物祭り」が行われる。祭りの会場には、いろいろな店が出る。昨年は、四十の店が出た。今年は、六十の店が出る予定である。祭りに集まる人の数は、店の数に関係があるということが分かっている。店の数が多い年にはたくさんの人が集まり、少ない年にはあまり集まらない。こうしたことから、今年の祭りに集まる人の数は、昨年集まった人の数よりも ということが予想される。なぜなら、今年、店を出す予定の数は、昨年、店を出した数よりも からだ。

- 1 ア 少なくなる イ 多い
- 2 ア 多くなる イ 少ない
- 3 ア 少なくなる イ 少ない
- 4 ア 多くなる イ 多い

昨年の店の数は？
今年の店の数は？
どちらが多いのかな？



二 次は、ある物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。ア・イ・ウの中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。

「読まなくても、見るだけでいい」おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひとつおじいちゃんに返した。もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。 はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして にあやまるか、さもなければまっ赤になって、こんなふうに言って をしかる。「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい！」でも、母さんはそこにはいなかった。

ア

イ

ウ

単元		年組番
六年 筆写の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「笑うから楽しい」		
氏名		3問

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

私たちの体の動きと心の動きは、密接に関係しています。例えば、私たちは悲しいときに泣く、楽しいときに笑うというように、心の動きが体の動きに表れます。しかし、それと同時に、体を動かすことで、心を動かすこともできるのです。泣くと悲しくなったり、笑うと楽しくなったりすることです。

私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こします。ある実験で、参加者に口を横に開いて、歯が見えるようにしてもらいました。このときの顔の動きは、笑っているときの表情と、とてもよく似ています。実験の参加者は、自分たちがえがおになっていることに気づいていませんでしたが、自然とゆかいな気持ちになっていました。このとき、脳は表情から「今、自分は笑っている」と判断し、笑っているときの心の動き、つまり、楽しい気持ちを引き起こしていたのです。

表情によって呼吸が変化し、脳内の血液温度が変わることも、私たちの心の動き動きを決める大切な要素の一つです。人は、脳を流れる血液の温度が低ければ、こころよく感じる事が分かっています。笑ったときの表情は、笑っていないときと比べて、鼻の入り口が広くなるので、多くの空気を取りこむことができます。えがおになって、たくさん空気を吸いこむと、脳を流れる血液が冷やされて、楽しい気持ちが生じるのです。

私たちの体と心は、それぞれ別々のものではなく、深く関わり合っています。楽しいという心の動きが、えがおという体の働きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかけるのです。何かいやなことがあったときは、このことを思い出して、鏡の前でにっこり笑顔を作ってみるのもよいかもかもしれません。

一 筆者の考えは、第四段落に書かれています。その考えのもとにしている事例を二つ挙げましょう。

二 この文章に対するあなたの考えを自分の立場を明確にし、体験と結んで書きましょう。

